

## 「東山梨教育研究第47号」発刊にあたって

山梨市教育委員会委員長 武井尚子

「東山梨教育研究第47号」の発刊にあたり、東山梨地域の教育力向上の具現化に向けて、地道な努力を重ねておられる現場の先生方をはじめ、関係者の皆様に、心より、敬意を表します。

未曾有の経済危機といわれている現在ですが、明治の先覚者、福沢諭吉は、「政治上の失敗の影響は大きいですが、それに気づいて改めれば、鏡面の曇りを拭うのと同じで、疵跡は残らない。だが、教育の失敗は、阿片のように全身に毒が回るのに、表面に現れるまでに歳月を要するので、気づくことが遅れ、回復にも時間がかかる。」と、述べているそうですが、これまでの人類の歴史の栄枯盛衰を概観してみても、何時の時代も、教育問題は、国家の最重要課題であることを、痛感いたします。

特に、最近では、教育問題における課題は山積し、他の先進国と同様、社会の国民的コンセンサスとなっています。そして、当地域の各学校でも、子供たちの学力低下や、学習意欲の減退、人間関係の希薄化や、人を思いやる心の欠如、運動における二極化現象、体力の低下等が指摘される中、確かな学力の育成、互いの人格を尊重し、命の大切さ、思いやりや規範意識の育成、たくましい心身の育成、自ら考え、正しく判断して、価値のある行動ができる力の育成、個性と創造力豊かな子供の育成等を指針とし、様々な工夫や取り組みがなされています。しかし、学校現場だけで、必死になって、これらを、支えようとしても、思うようにならない現実があることも事実です。

学校教育が、家庭で培った基本的な生活習慣を土台に、学習や、生活の基礎基本を習得する場である考えると、学校教育をより充実させるためには、やはり、家庭教育の充実を図るため、地域社会にも積極的に働きかけ、核家族化等により、現在の家庭から失われてかけている、異世代間のコミュニケーション、地域の伝統文化を育む心や郷土愛等、子供たちの発達にとって必要な機能を、地域として補うよう、提言する等、学校、家庭、地域社会の連携を、今まで以上に深めていくことが、大切だと思います。

そして、子供たちのそれぞれにちがった能力を、伸長、開花させるという学校教育の本来の目的をふまえ、今後、予測されます、急激な社会の変化や、多様な価値観に惑わされることなく、子供たち、一人一人の自己実現と、社会に有為な人材の形成のために、何を大切に、何をなすべきかを、常に考え、謙虚に実践することが、教育に課せられた責務なのだと思います。

教職員の皆様に日頃のお骨折りに対し、感謝いたしますとともに、子供たちの人生をしっかりと、切り拓くという、誇りと、信念を持って、ますます、御活躍され、将来、教育の真価が問われます時に、東山梨地域の子供たちが、日本を支える大人として、健全に育っていることを願ひまして、ごあいさついたします。